

ぶんけい

教育ほつとにゅーす
かわら版こみち
教育の小徑

7月号

2012
JULY
No.45

今月のことば

いしん でんしん
以心伝心

言葉で伝えなくても、互いに心や気持ちが通じ合うことを言います。禅宗の世界で、言葉や文字で説明できない仏法の真理や神髄を師から弟子の心へ伝えることを言いました。

今月の記念日

海の日(7月の第3月曜日)

今年は7月16日です。平成8年に国民の祝日に定められました。当時は7月20日でしたが、平成15年から現在のように改められました。海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願って制定されました。



国士舘大学教授
北 俊夫先生

今月の
テーマ

保護者会・個人面談一話のヒント

- 7月の保護者会や個人面談では、4月に説明した学級経営案にもとづいて、子どもたちの進歩の状況や成長の様子について具体的に話します。
- 保護者会では、担任が話すだけでなく、保護者の意見や悩みを引き出しながら、保護者が互いに学び合う場にします。

配慮すべき、3つのこと

7月になると、保護者会や個人面談が実施されます。学級担任としてどのような話や話し方をすればよいのでしょうか。そのポイントは次の3点です。

まず、4月の保護者会で説明した学級経営案にもとづいて話します。保護者の多くは、わが子が学校での勉強を理解しているか。友だちや先生に迷惑をかけていないか。友だちと仲良く学校生活を送っているかなど、さまざまなことに関心をもっています。保護者の中には学校に過剰な期待をもっている場合もあります。4ヶ月を振り返り、担任が掲げた指導の方針や目標に照らして、子どもたちの進歩の状況や成長の様子を具体的な事例をもとに話します。

次に、話すときには学級全体の様子と個々の子どもの様子を区別します。保護者会では、個人が特定されないように留意します。ひとつのモデルとして紹介するときには、名前を伏せるなどの配慮が必要です。保護者会では学級全体の傾向を中心に、個人に関することは当該の保護者との面談の場で話すなどの区別をします。

次に、夏休みを迎える時期ですから改善したい課題についても話します。その場合、どうしても保護者に「○○○してください」とお願いすることが多くなりがちですが、保護者に課題を伝えるだけでなく、担任の指導上の課題として話すようにすることが大切です。

家庭での子どもの様子を引き出す

保護者会や個人面談は、学校として実施する行事ですから、どうしても学校や担任からの話や情報提供が中心になりがちです。担任から一方的に話すだけでなく、保護者から意見や要望などを引き出すことも大切です。

保護者は子どもの言い分を通して学校生活や担任について理解します。ところが、子どもによっては学校と家庭でその様子が異なることがあります。学校生活の様子を正確に伝えていない子どももいます。そのため、担任の方針や学校での様子を誤解して理解している保護者がいるかもしれません。

家庭で学校や担任についてどのようなことが話題になっているかについて聞き、家庭での子どもの様子や学校や担任に対する願いなどを引き出すようにし

ます。子どもについての話題が保護者との間で双方向で行われるようになることが理想です。このことによって、担任は家庭での子どもの様子が理解できます。また、担任の考えが家庭にどのように伝わっているかをとらえることもできます。担任と保護者が相互に理解を深めることができます。

そのためには、担任と保護者との間に自由に言い合える信頼関係が構築されている必要があります。担任の姿勢が問われることにもなります。

保護者が互いに学び合う場に

学級担任からの話だけですと、保護者は「ただ話を聞いて帰る」という姿勢が強くなり、日ごろの悩みや疑問が解決されないままになります。保護者会の後半では、保護者が互いの悩みを出し合う場にしてはどうでしょうか。気軽な気持ちで話ができるように、後半の進行を学級委員など保護者の代表者に依頼する方法もあります。

例えば「家庭での学習習慣をどのように身につけているか」「夏休みを規則正しく過ごさせるにはどうしたらよいか」などテーマを決めて話し合うとよいでしょう。こうした話し合いによって、保護者が互いに情報交換し学び合う場になります。

担任は、話し合いの方向づけをしたり、自由に言い合える雰囲気づくりにとめます。話の内容を整理したり、アイデアやヒント、事例などを紹介したりすることも大切です。

教えて北先生

意欲のない子ども

Q. 学校には毎日登校して来るのですが、学級での仕事や学習など、何ごとにも自ら意欲的に取り組もうとしない子どもがいます。ただし教師が具体的に指示したことはやり遂げます。このような子どもにはどのようにかかわればよいのでしょうか。

A. 子どもに意欲をどのように育てるか。このことはいつの時代でも課題になってきました。それだけ難しい問題だということでしょう。意欲を育てるには、内発的な方法と外発的な方法があると言われています。

前者は目的意識をもたせ、内発的な動機づけをするものです。子どもをその気にさせることです。自己有用感を感じさせると意欲になります。学習場面では、疑問（はてな）や問題意識をもたせる工夫をすると、意欲的に取り組むようになると言います。「具体的に指示したことはやり遂げる」ということは、見通しをもつようになると、やる気を出すということです。

後者の外発的な動機づけとは、努力の成果や結果に対して褒美や罰を与えることです。褒美が欲しくて、また罰が与えられないように、子どもたちは意欲を出して努力します。こうした方法には一定の成果も期待できますが、褒美などがなくなると、とたんに取り組まなくなることがあります。

いずれの手だてをとるか、一人一人の子どもを見きわめて決定します。



教育の動向

土曜日の授業実施状況

土曜休業日に授業を実施する動きがあります。文部科学省が実施した「平成23年度公立小・中学校における教育課程の編成・実施状況調査」によると、土曜日等に、希望者に対して基礎学力向上や補充・発展的学習等のための学習機会を提供している小学校は3.3% (3.4%) です。ちなみに中学校は8.6% (9.0%) です。()内の数字は平成21年度の調査結果です。いずれも減少しています。

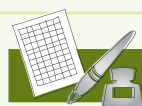
東京都教育委員会が平成24年度に実施した調査によると、年間6回(月1

回程度)以上の土曜日を授業日にする小学校は約43%に上っています。中学校では約47%です。平成22年度と比べていずれも4倍程度増加しています。実施の状況は学校や地域によって開きがあり、課題になっています。

このような状況が見られるのは、都教育委員会が月2回を上限に希望する学校では教育課程に位置づけられた土曜日の授業実施を認めたためです。

土曜日に授業を実施することに対して、学校週5日制の趣旨が生かされているか。学力のとらえ方に問題はないかなどの指摘も出されています。

2学期制から3学期制に戻している学校や地域も一部あります。



コラム 北先生の授業力向上術

種を蒔くー授業の布石

布石とは、将来の状況を想定してあらかじめ準備したり手を打ったりすることです。「布石を打つ」などと言います。囲碁や将棋などの世界では鉄則です。こうした先を見て、いまなすべきことを行っておくという考え方は、授業においても重要な手だてです。

例えば自動車工業についての学習が予定されているとき、事前にプラモデルの自動車を作った経験の有無やその作り方について話題にします。

プラモデルは、おもちゃ屋さんなどから箱に入った原材料を一括して購入します。そして、いくつかのパーツ(部品)を順序よく組み立てていきます。基本的には一人で作り、場合によっては数日間もかけて一台の自動車を完成させます。

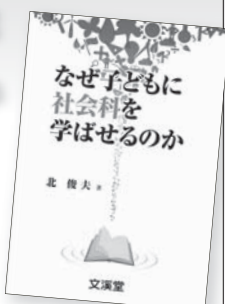
プラモデルの自動車と本物の自動車の作り方の共通点と違いに気づかせることができます。原材料の入手方法、自動車の組み立て方、完成までの時間など、自動車工業を調べる観点を明確にすることもできます。

授業の布石を打つとは、子どもたちにあらかじめ興味や関心をもたせておくだけでなく、学習するときの視点や方法などを「頭だし」しておくことでもあります。このような手だてができるようになるためには、授業に対する全体の景色(全体像)を把握しておかなければなりません。先を見ていながら手を打つことは重要な授業力です。



INFORMATION

なぜ子どもに社会科を学ばせるのか

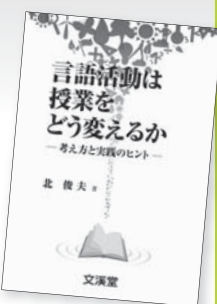


◎著者 北 俊夫
◎定価 998円
(本体950円+税)
◎発行 株式会社文溪堂

A5判 104ページ

言語活動は授業をどう変えるか

ー考え方と実践のヒントー



◎著者 北 俊夫
◎定価 998円
(本体950円+税)
◎発行 株式会社文溪堂

A5判 112ページ

「教育の小径」の全てのバックナンバーをインターネットでお読みいただけます!

ダウンロードして印刷も可能です。お知り合いの先生にもぜひお勧めください。
<http://www.bunkei.co.jp/2012/monthly.html>
または「ぶんげい 教育の小径」で検索。



企画・編集: ぶんげい教育研究所
発行: 株式会社文溪堂
発行日: 2012年7月1日